慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序：『三田学会雑誌』のさらなる発展にむけて
Sub Title	Preface : for further development of Mita gakkai zasshi
Author	細田, 衛士(Hosoda, Eiji)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2007
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.100, No.1 (2007. 4) ,p.1- 2
JaLC DOI	10.14991/001.20070401-0001
Abstract	
Notes	特集：『三田学会雑誌』100巻
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20070401-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」100 巻 1 号（2007 年 4 月）

序

――『三田学会雑誌』のさらなる発展にむけて――

慶應義塾経済学会委員長
細　田　衛　士

明治 42 年 2 月 1 日，『三田学会雑誌』第 1 巻第 1 号が刊行されてから，この号で第 100 巻という記念すべき節目を迎えることになった。古くは「慶應の理財」そして現在では「慶應の経済」と呼ばれる三田の経済学の伝統は，教育の面では優れた人材を世に送り出してきたが，一方研究の面では『三田学会雑誌』を通じて日本の経済学をリードする役割を果たしてきた。今，三田の経済学の研究者が残してきた足跡を振り返ってみると，そこには想像を絶するような努力・エネルギー・独立自尊の力があることがわかる。

この記念号には，三田の経済学全般の歴史とともに，経済理論（近代経済学），統計・計量経済学，経済史，そしてマルクス経済学それぞれの領域において蓄積され，そして日本に発信された三田の経済学の歴史が収められている。学問を輸入に依存せざるを得なかった時期にも，西洋の経済学を常に批判的に受けとめつつ消化し，次なる独自の発展・展開につなげていった努力には脱帽せざるを得ない。また，軍事的圧制が学問の領域にも及ぼうとしていた時期にも，学問の独立を守り，研究者として真実を貫き通そうとした態度には，ただただ敬服するばかりである。

さて，現在，三田の経済学は転換期にさしかかったように思われる。十分に蓄積された知識のストックを基盤として，今や研究者が研究成果を広く世界に発信することが当たり前のこととなった。学会は国際化し，国際的コミュニケーションは常日頃行っていることである。先輩たちが命をかけて行った留学は，今や日常のこととなった。そして，研究成果を発表する場も国際的になり，論文を国際ジャーナルに刊行することは研究者の業績評価の重要な対象となっている。

加えて，経済学の分野は細分化され，少しでも分野が異なると他の研究者が何を研究しているのか理解することさえ難しくなった。およそどの科学分野でも細分化は避けられないことのようだが，経済学も例外ではない。いくら学際的研究の重要性が指摘されても，業績の多くは細分化された領域のなかで蓄積されていく。こうして研究成果の発表の場も細分化された専門誌へと変わってゆく。

この学問の国際化と細分化という避けられない流れのなかで三田の経済学の命脈を維持・発展さ

せ，さらなる発展につなげるために何をなすべきか，我々は今模索を迫られている。しかしながら，本号の各論文を読んでもわかるとおり，その時代その時代で三田の研究者たちは常に悩みつつ時代を切り開いてきた。なにも今に生きる我々だけが悩んでいるのではないのである。

うれしいことに，『三田学会雑誌』に発表された論文が体系立てられ，大著となって世に評価されたという例は少なくない。また，特集号の企画は，塾内外の研究者の学問共同体の形成に大きく貢献している。こうした実りを次の収穫として持続的に発展させていくことが今我々に求められている。

本号を刊行に当たっては多くの方々の力をお借りすることになった。まず，本号の論文執筆に快く応じてくださり，それぞれ理論経済学，マルクス経済学，経済史そして統計・計量経済学の領域にわたる三田経済学の伝統と発展について論文を寄稿してくださった福岡正夫，飯田裕康，岡田泰男，蓑谷千凰彦の各名誉教授には心よりお礼を申し上げたい。これらの論文を読むと，三田経済学の重みを感じるとともに，我々に課せられた使命を強く感じる。そして，『三田学会雑誌』の通史という大変な作業を行ってくださった小室正紀，池田幸弘の両教授にも心よりのお礼を申し上げたい。いかに執筆作業が大変であったか偲ばれる。

また，前『三田学会雑誌』編集委員長の寺出道雄教授には，本号の編集責任者という重責を担っていただいた。寺出教授の献身的なご努力がなければ，ここまで完成度の高い編集はできなかったであろう。この場をお借りして同教授に心からの感謝を申し上げたい。

本号編集の過程では慶應義塾大学出版会の藤村信行氏には大変お世話になった。記して謝意を表したい。そして最後になってしまったが，慶應義塾経済学会の煩雑な日常業務からこの号の編集のような特別の企画に至るまで，熱心な作業を厭わず続けてくださった秘書の園田尚子さん，金子佳世子さん，樋口敦子さんの三人にも心よりのお礼を申し上げたい。以上の方々のお力があればこそ本号の刊行が可能になったのである。

（経済学部教授）